



りんご生産情報（6月号）

令和6年6月18日
北地区営農係

現在、バヤむしり取り期間中！！むしれる内にむしってしまいましょう！！

りんごの肥大状況

6月11日現在の果実肥大は、各品種において平年を上回る結果となりました。ふじの平場では、平年比133.3%、前年比100%となっています。

単位：ミリ

地点	つがる	ジョナゴールド	王林	ふじ
中崎（平場）	38	34	35	33
住吉（中間）	38	36	33	35
弥生（山手）	35	35	31	31
管内平均	37	35	33	33
農協平均	36	35	34	32

1、摘果作業

6月は枝・葉・根の生長が旺盛で、養分を競脱し、生理不順になりやすい時期です。また、6月末からは花芽形成に入ります。

今年の着花不足やカラマツは昨年の花芽分化期の高温や開花期間中の強風など気象的な要因もありますが、昨年の過着果による影響も誘因しています。今年もまた夏場の高温が予想されており、花芽分化には不利な条件となることが予想されます。少しでもその影響を少なくするためにも「早く強い摘果」を心掛けましょう。

仕上げ摘果のポイント

高温や干ばつに負けない充実した花芽の形成を促すため、7月上旬を目安に行う。充実している花そうに成らせる。（右図参照）

【充実している果そう】



2、薬剤散布

今後、気温の上昇に伴いハダニの発生が懸念されます。量が多くなると、殺ダニ剤を散布しても対応しきれない場合がありますので、今後は予察を行い、発生しているダニに合わせた農薬を散布しましょう。

散布時期	対象病害虫	薬剤名及び混合順序	倍数	1000 当り薬量	防除上の注意
7回目 落花40日後 (6月17日頃)	黒星病・褐斑病・炭そ病・輪紋病・ 斑点落葉病・すす斑・すす点病 アブラムシ・ハダニ類 アブラムシ・ギンメミズカ	ジマンダイセン水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 ダニオーテフロアブル カルマツチ	600倍 4,000倍 2,000倍 770倍	1.67kg×1袋 250g×1袋 250ml×2本 1.3kg×1袋	・降雨が予想される場合は、前倒して散布してください。 ・ハダニの発生予察を行い、発生が早い場合は殺ダニ剤の早期散布を検討しましょう。
8回目 7月初め (7月1日頃)	黒星病・褐斑病・炭そ病・斑点落葉病・ すす斑・すす点病・輪紋病 アブラムシ・ハダニ類 アブラムシ・ギンメミズカ	オキシンドー水和剤 アーデントフロアブル カルマツチ	1,200倍 2,000倍 770倍	835g×1袋 250ml×2本 1.3kg×1袋	・アブラムシの発生が多い場合は、ウララDF コルト顆粒水和剤 トランスフォームFL いずれかの剤を加用して散布しましょう。
9回目 7月半ば (7月15日頃)	黒星病・褐斑病・炭そ病・腐らん病・ 斑点落葉病・すす斑・すす点病 アブラムシ・ハダニ類 アブラムシ・ギンメミズカ	オキシンドー水和剤 オンリーワンフロアブル フェニックスフロアブル	1,200倍 2,000倍 4,000倍	835g×1袋 250ml×2袋 250ml×1本	

3. マメコバチの管理

マメコバチの巣箱を設置している園地では、7月上旬頃に巣箱を小屋などの涼しい場所に移動しましょう。直射日光が当たるところや、高温になる場所を避け、風通しの良い日陰に保管しましょう。

4. 袋かけ作業

袋かけは落花50日頃が目安となるため、7月10日頃までに作業を進めましょう。袋をかける際には、もう一度着果量を確認し、成らせ過ぎにならないよう注意しましょう。袋かけは薬剤散布後5日以内に行い、間隔が空いた場合は、殺菌剤（チオノック等）で実洗いを行いましょう。また、着果量が不足している園地では、積極的に有袋栽培に取組み所得確保に努めましょう。

令和6年産りんご予約受付実施中！！

現在今年産のりんご予約申込みを受付しております。受付期間は7月19日（金）までとなりますので、1箱でも多い予約をお願いいたします。

